

問題【英語】

英語を学ぶにあたって、英語と日本語の共通点・相違点を知ることとはとても大事です。次の2問を通して、それらを少し探ってみましょう。

①次の(あ)と(い)の文の意味は同じですか。

(あ) 私はあげた、トムに犬を。

(い) 私はあげた、犬をトムに。

②次の(A)と(B)の文の意味は同じですか。

(A) I gave Tom a dog.

(B) I gave a dog Tom.

豆知識 雑学コラム

英語と日本語の違い

①の日本語はどちらも少し不自然だったかもしれませんが、しかし、意味はきちんと理解することができますね。ではなぜ、意味を理解できたのでしょうか。ために、次の(う)の意味を考えてみてください。

(う) 私 あげた、トム 犬。

ほとんどの方が「私はトムに犬をあげた」と理解したのではないのでしょうか。しかし「私にあげた、トムが犬を」と言っても、不自然ですが絶対に違うとは言えません。日本語において、名詞の役割は助詞が決めます。そのため、どの助詞がついたかによって、同じ位置にある同じ名詞が主語になったり目的語になったりするのです。

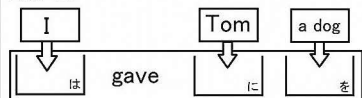
一方で、英語ではどうでしょう。②では a dog と Tom の順番を入れ替えています。この二つの文は意味が異なります。(A)は①の日本語と同じ「私はトムに犬をあげた」に対し、(B)は「私は犬にトムをあげた」となってしまうのです。なぜこのようなことが起こるのでしょうか。日本語では助詞が名詞の役割を決めていましたが、英語では名詞の位置が役割を決めているからです。

突然ですが、名詞はカードに書かれているもの、と考えてみてください。日本語ではこのカードを、助詞が書かれた袋に入れます。動詞もカードに書いてしまい、それらをシャッフルすれば文の完成です。一方で、英語では動詞が前後にいくつかのポケットをもっており、そこにはすでに「は」「に」「を」といった助詞が書かれています。動詞の持っているポケットに名詞のカードを入れたら英文の完成です。ここまでの内容を下の図のようにまとめてみました。

日本語では



英語では



高校生になると「文型」を習いますが、今回考えた動詞のポケットの持ち方のパターンが文型です。このパターンを大別すると五つですが、これだけでは簡単なことしか言えません。もっと豊かな文を作るにはどうすればいいかは、今後見ていきましょう。

【解答】

いぬにあげた。② ①回